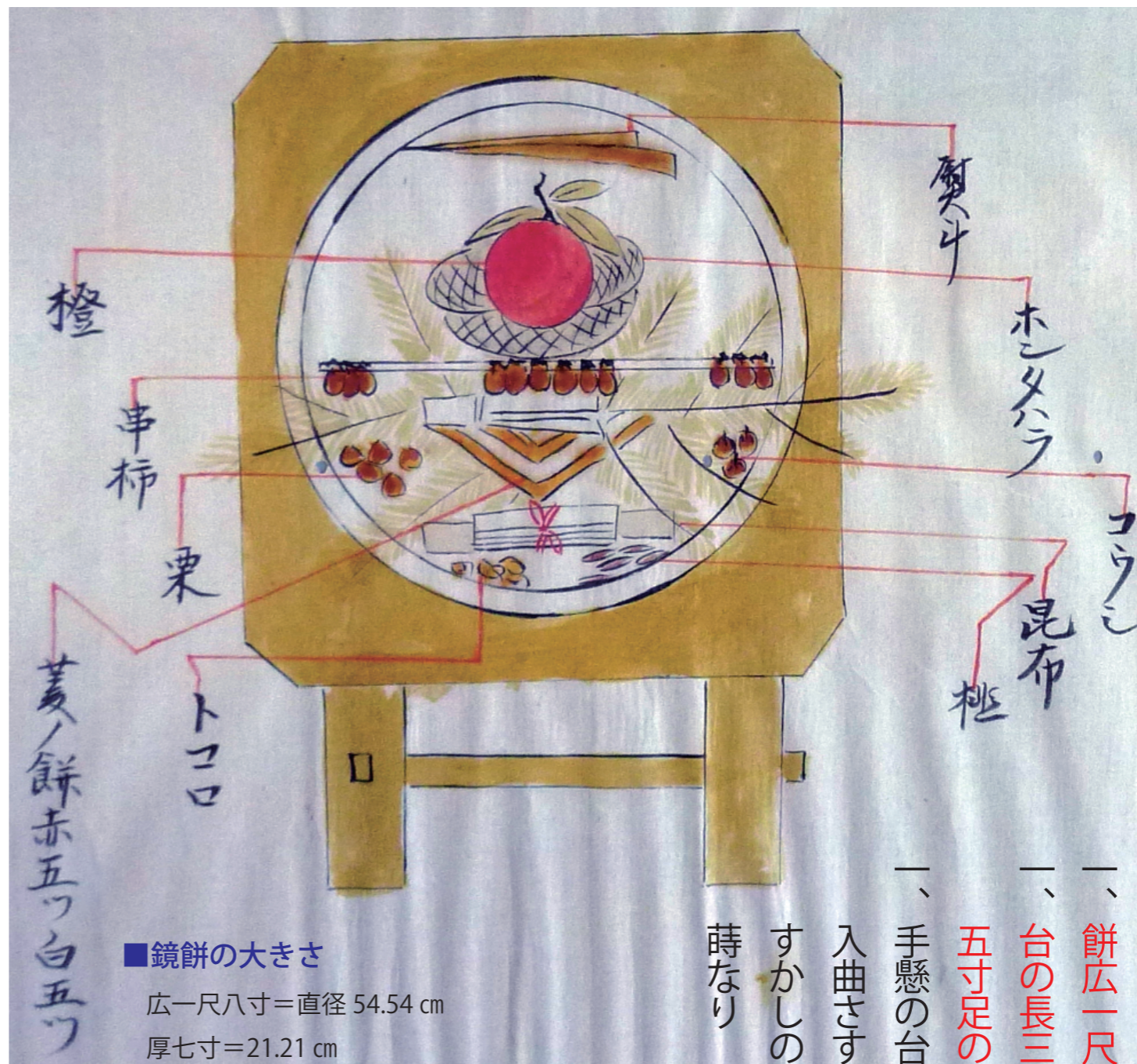


昔の鏡餅（小笠原流（小笠原流 ※武家礼式の一派）を再現してみました！

宇和島城山を守る会で製作しました。

昔の人は、縁起を担ぐため入念に準備をして新年を迎えようとしたことがわかります。

宇和島伊達家史料 戊 07-0074-41 『小笠原流印可巻 五節句の飾』 より
【所蔵】公益財団法人 宇和島伊達文化保存会



■鏡餅の大きさ

広一尺八寸=直径 54.54 cm
厚七寸=21.21 cm

今回は、2升の餅米で1つのお餅をつきましたが、直径約 40 cm、高さ 4 cm程度でした。これから計算すると、1つの餅をつくのに、20升（2斗）、鏡餅にするには4斗、なんと1俵も必要だことがわかりました。餅米は会員が提供、20名あまりの城守さんが石臼と木杵でつきました。

■台の大きさ

長三尺五寸⇒奥行 106.05 cm / 広さ貳尺五寸⇒幅 75.75 cm
縁の高五寸⇒盆の縁高 15.15 cm / 足の高さ壹尺五寸⇒45.45 cm

史料の数値通りに、城守さん（元大工職人）が製作しました。

- 一、餅広一尺八寸厚七寸上下何も同前
- 一、台の長三尺五寸広さ貳尺五寸縁の高五寸足の高さ壹尺五寸たり足にすへし
- 一、手懸の台は公饗のことく厚念を入曲さするなり先紙一重宛両方へすすかしのみゆる程に敷て其上に米を蒔なり

■お供えされているものについて

伊達家の史料には由来などは書かれていなかったもので、色々と調べてみました。

● 熨斗 (のし)

鮑（あわび）の肉を薄くはぎ、引き伸ばして乾かしたもの。古くは食用、後に儀式用の肴（さかな）に用いられ、さらに祝儀の贈り物に添える風習となりました。

● 橙 (だいたい)

木から落ちずに大きく実が育つことにあやかって、代々家が大きく栄えるようにと願った縁起物。城山で採取。

● ホンタハラ

海藻の一種で、ホンダワラと呼ばれるのが一般的です。浮き袋が俵を意味し、「家が栄える」ということにかけていると言われます。

● 串柿

柿は縁起の良い長寿の木で、幸せをカキ集める、「嘉来」（かき=喜び幸せが来る）ということにかけていると言われます。

● 菱ノ餅

もともとは正月飾りに供えられ、菱の実を粉にして作ったものだそうです。菱には子孫繁栄と長寿の力があると言われます。城守さんの手作りです。

● 栗

勝栗（干し栗）のことです。今回は天赦園の栗を城守さんが保存していたものを使用しました。

● コウジ

コウジ（柑子）と呼ばれるのが一般的です。ミカンの在来種の一つですが、橘の別称ともあるので、今回は吉田町長福寺にある橘の実を分けていただきました。橘は国内唯一の野生のミカンで、常世からもたらされたとされ、永遠の繁栄や長寿の象徴と言われます。

● 昆布

もともと武士の出陣の際に用いられた「打ち鮑・勝栗・昆布」（敵に「勝ち」「打ち」「喜ぶ」という意味）が、慶事でも使われるようになったそうです。

● トコロ

山芋の仲間です。「野老」と書きますが、その鬚根を老人の鬚に見立てたからで、海老に対しての野老です。芋が長いので長命を連想させ、土中におくほど大きくなることから、年をとるほど栄える縁起物とされます。

● 桃

災厄を除く、不老長寿の樹木とされていることに由来しているのではと思います。松野町の桃の種を頂きました。

● 裏白 ※文書には名前は書かれていません

古い葉とともに新しい葉がしだいに伸びてくるので、久しく栄えわたるといふ縁起をかつぐものです。

今回の再現にあたって多くの方のご協力をいただきました。ありがとうございました。（敬称略・五十音順）

- ・宇和津彦神社・江後迪子・長福寺・鶴島公民館
- ・公益財団法人 宇和島伊達文化保存会

宇和島城 城山を守る会一同

